

「熊本市障がい者プラン」中間見直しに伴う新たな重点施策(案)

平成26年10月6日現在
障がい保健福祉課

1 重点施策の考え方

現在の重点施策に掲げる事項を中心に、他の施策・事業と一体的に取組みを考えることが必要な事項について、施策横断的な観点から再整理する。

※現在の重点施策(熊本市障がい者プランP11～12ページ)

2 重点施策の記載イメージ

第4章 重点施策

本計画の「自立と共生の地域づくり」の基本理念に基づき、「誰もが自分の能力を活かして平等に社会に参加できる環境づくり」を進める中で、本計画期間中に特に重点的に取り組むべき課題として次の2つのプロジェクトを掲げ、全庁的にその推進を図ります。

- 各プロジェクト名
- 各プロジェクトの考え方
- 取組みの方向(施策の体系と取り組み例)
- 成果指標
- 図表等(各プロジェクト関連施策の関係イメージ図など)

【1】生涯を通じた支援のシームレスプロジェクト(福祉、保健、医療、教育の連携)

障がいのある児童とその家族が将来を見通し適切な支援を受けながら暮らしていくことができる社会の実現を目指します。

そこで、ライフステージに応じた相談体制や情報提供の充実、障害福祉サービスをはじめとした福祉制度と学校教育の相互連携を図ることで、生涯を通じて一貫した切れ目のない支援体制の充実に努めます。

【取組みの方向】

生涯を通じた支援のシームレスプロジェクト

()内は主な取組み例

多様な機関の連携による総合的な情報提供と情報の共有化

・福祉的相談支援及び教育相談支援体制の充実と連携

(相談支援事業所、子ども発達支援センター、発達障がい者支援センター、こころの健康センター、ひきこもり支援センター、児童相談所、障がい者虐待防止センター、地域包括支援センター、教育相談室、関係各課等)

・関係機関の情報共有と施策立案・実施段階における連携

(各種行政計画の整合、庁内連携会議の設置等)

※障がい者プラン、障がい福祉計画、特別支援教育推進計画、ひびけ！子ども未来プラン（子ども・子育て支援事業計画）等

ライフステージに応じた支援と様々な連携

・ライフステージが変わる際のつなぎと伴走型の支援

(幼児期・学齢期における移行支援シートの活用、就学相談、介護保険へのスムーズな移行等)

・制度の谷間にある障がいを含めた支援が必要な児者の早期発見と適切な支援

(校区保健師による支援、各種検診の充実、障がい児通所支援事業（福祉型・医療型児童発達支援等）、障がい児等療育支援等)

・全てのライフステージにおける家族支援の充実

(障がい児通所支援事業（放課後等デイ等）、サマーほっとクラブ、児童育成クラブ、障がい福祉サービス（短期入所、日中一時支援、訪問支援等）

【成果指標】（H26 実績値→H29 目標値）

○ 相談機関（障がい者相談支援事業所）の認知度及び利用状況

38. 1%（利用したことがある10. 8%、知っているが利用したことはない27. 3%）⇒ ●●%

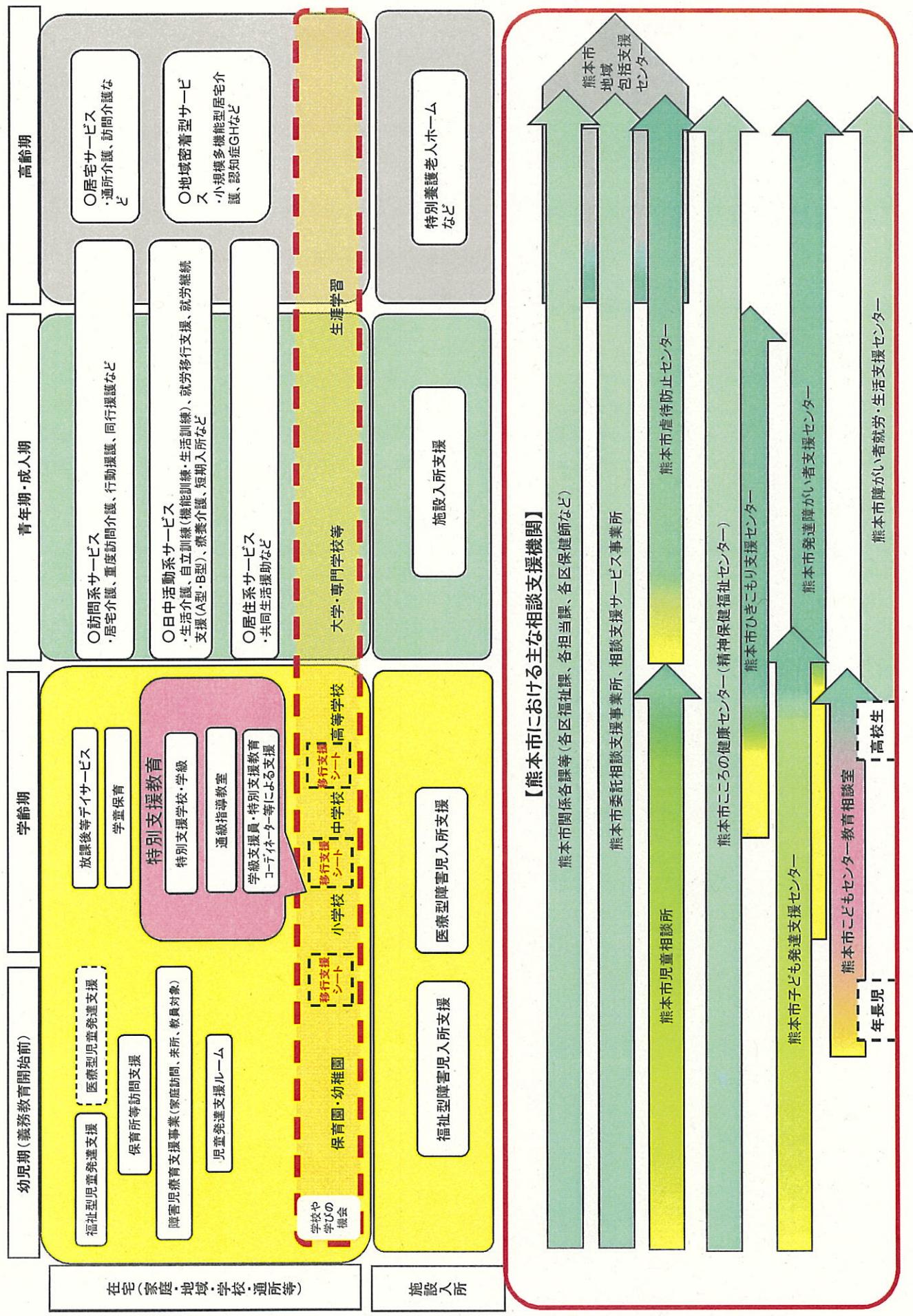
※障がい当事者アンケートより（18歳以上：H26. 7～8月実施）

53. 3%（利用したことがある25. 7%、知っているが利用したことはない27. 6%）⇒ ●●%

※障がい当事者アンケートより（18歳未満：H26. 7～8月実施）

※別紙図表参照

【1】生涯を通じた支援のシームレスプロジェクト 生涯を通じた障がいのある方への支援体制（イメージ図 H26年9月末現在）



【2】社会参加促進プロジェクト

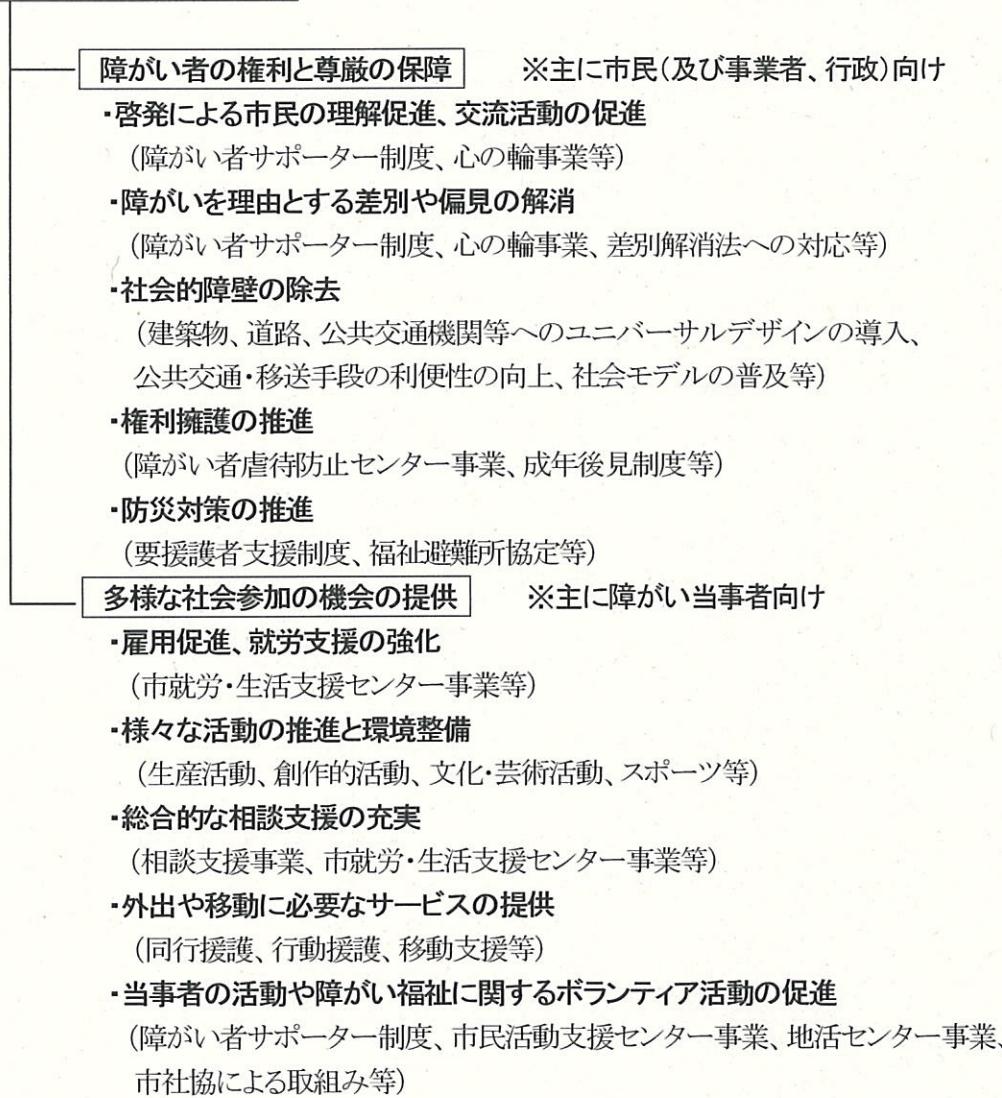
多くの人が、障がいや障がいのある方に対する正しい理解を深め、障がいの有無にかかわらず、相互に人格と個性を尊重し合いながら共生する社会の実現を目指します。

そこで、障がいのある方が地域の中で自分らしく働いたり、スポーツやレクリエーション、芸術・文化・余暇活動などを身近に楽しめるよう環境の整備に努め、多様な社会参加の機会を提供に取り組み、そのために必要な障がいに対する市民への理解促進を推進します。

【取組みの方向】

社会参加促進プロジェクト

()内は主な取組み例



【成果指標】(H26 実績値→H29 目標値)

- 熊本市が障がいのある人にとって暮らしやすいまちだと思う割合

34.0% (思う12.4%、どちらかといえば思う21.6%) ⇒ ●●%

※どちらとも言えない38.0%、どちらかといえば思わない9.9%、思わない8.2%

※障がい当事者アンケートより(H26.7~8月実施)